

何んだろう？



●鍾乳石

鍾乳洞の主角はなんといっても、鍾乳石です。この鍾乳石という名前は、乳水（石灰岩が水でとがされてできた炭酸カルシウム）が鍾（あつまつてできた石というところからつけられました。雨水は空気

炭酸ガスを出して、炭酸カルシウムの結晶をつくります。この結晶がどんどん大きくなって、鍾乳石ができていきます。

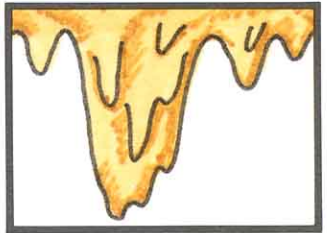
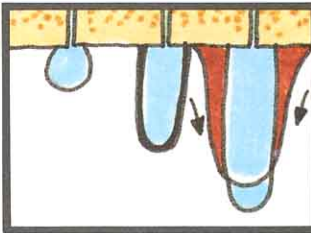
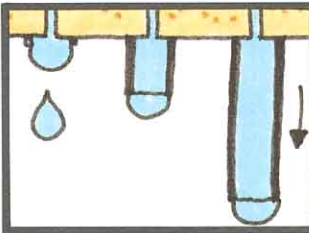
●鍾乳管

洞穴の天井小さな割れ目からしみ出してくる炭酸カルシウムをふくんだ水は、水滴とな

を越すものもありますが、大変おれやすく、長くなりすぎると自然にすれてしまうことが多いのです。1年間に1～1/4 mm、1 cm のびるのに10年

●つらら石

鍾乳管がつくられていくなか



●水蝕の跡

鍾乳洞のほとんどは、その中を流れる地下水の力でできます。地上の川と同じようにまがりくねったり、また洞穴にしか見られない、特有の形があります。

のなかや土のなかにふくまれている炭酸ガスといっしょになって、弱い炭酸というものになります。この炭酸が石灰岩の割れ目に入り、しみこみ、そして石灰岩をとがして洞穴の割れ目から出てきます。石灰岩は、炭酸カルシウムからできていて、炭酸にこれをとがして出てきます。この水が鍾乳石をつくります。とても長い時間をかけて、この水は

って下へ落ちます。落ちる前に水滴はすこしのあいだ天井に止まっています。このあいだに炭酸ガスが出て、氷の表面に炭酸カルシウムの結晶ができます。この炭酸カルシウムの膜は、根本にあつまり、すこずつかたまっていきます。これをくりかえし長さを増して、大きくなっていきます。これが鍾乳管です。直径は、5 mm～7 mm くらいで、長さは1 m

で、この先が結晶によってふさがれてしまうことがあります。成長を続けてきた鍾乳管は、これで成長を止めます。しかし、天井をつたわってくる水によって、この鍾乳管の外側を流れ、その表面で結晶をつくります。これがつらら石です。つらら石の成長の速度は、鍾乳管よりもずっとおそいといわれています。